

人間らしい仕事を考える日

ディーセント・ワーク世界行動デー シンポジウム

～ 若者雇用から見る働きがいのある人間らしい仕事とは ～

第1部

主催者あいさつ
「ディーセント・ワークとは」

北海道労働文化協会 会長 荒又 重雄



基調講演

「私が見た世界の働き方～就活前の君に伝えたいこと」

日本ILO協議会 専務理事 中嶋 滋



第2部

トークセッション

留学生に聞く「若者の就活って大変?!」

パネル
ウラ ピルコラ さん(フィンランド 20代 元北大院生)
ソ ジンボム さん(韓国 30歳 北大院生)
アリヤ カルチャエヴァ さん(キルギス 20代 北大学部生)

コーディネーター
連合非正規労働センター
村上 陽子



生活改善へ、世界の人々と

ディーセント・ワークとは、ILOが呼びかけている言葉です。第一次大戦後に国際連盟の一環として創設されたILOの最初の申し合わせは1日8時間労働制でした。8時間労働制は、世界の労働者たちが5月1日をメーデーとして一緒に足並みを揃えようと決めた時の、最初の共通スローガンでもありました。工場で働く出稼ぎ労働者たちが、1日に16時間も17時間も働き、機械の脇にゴザやケットを敷いて寝ていたこともあったのです。

ILOの申し合わせは様々な分野に広がり精密になりました。国連の時代になって歴史的事情を異にする様々な新しい独立国が参加して来て、労働条件だけを一律にしようとしても難しくなり、ILOも雇用を重視するようになりました。

そうした動きを経て、改めて労働者生活の改善の目安が作られ、これを目指して世界の人々が足並みを揃える日として、ディーセント・ワーク・デーが提起されているのです。

荒又 重雄

ILOとは

国際労働機関といい、世界の労働者の労働条件と生活水準の改善を目的とする国連の専門機関のひとつです。

1919年に創設され、本部はスイス・ジュネーブにあります。加盟国は185カ国。日本は常任理事国です。

労働者、使用者、政府の三者で構成していることが特長です。

1969年にはノーベル平和賞を受賞しました。

英語表記は、International Labour Organization

2012年10月5日(金) 午後6時～(開場5時)

会場: ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

入場無料
先着180名

主催: 北海道労働文化協会、連合北海道

共催: 日本ILO協議会

後援: 厚生労働省北海道労働局、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、日本私立大学協会北海道支部、日本私立短期大学協会北海道支部、北海道私立専修学校各種学校連合会、北海道私立中学高等学校協会